

* 編集後記 *

本号では第9回ジオシンセティックス国際会議(9ICG)の特集を企画しました。9ICGはブラジル連邦共和国にて開催されました。ブラジルは日本からはとても遠い国ですが、我が国からは参加国ランキングで3位にあがるほどの多くの研究者・技術者が参加され、支部会員の活発な活動が反映されています。9ICGでは計7つの特別講演>Welcome Lecture×1、Keynote Lecture×3、Prestigious Lecture×2、Giroud Lecture×1)が行われました。本号ではWelcome Lectureを除く6つの特別講演をご紹介しましたが、その講演内容も課題としては「自然災害の抑制」、「ダム構造物の遮水性能の維持向上」等々の多岐に亘るものでした。これらの講演は、機能で分類すると補強・排水・分離・ろ過・遮水といったジオシンセティックス技術の多様性に裏付けられたものであり、社会基盤構造物に対するジオシンセティックス技術の有用性の高さを示していると考えられます。

我が国では既に高度経済成長期を過ぎて安定成長期に入っているため、大規模な国土開発計画は今後減少することになります。しかし、その一方で社会状態の変化に応じた新たな要求も出てくると予想されます。また、過去に構築・供用してきた構造物の維持管理の合理化や高度化については既に顕在化している問題です。この様な社会環境において、今日までジオシンセティックス技術が積極的に適用されてこなかった分野に対しても、今後の適用が期待されます。現に、9ICGの特別講演では諸外国での実績はあるものの、我が国での適用事例が少ない使用例も見受けられます。技術情報誌ではジオシンセティックス技術の進歩を広く会員各位にお知らせできるよう努めて参ります。

末筆となりましたが、ご多忙のなか原稿執筆をご快諾頂きました方々に御礼申し上げます。

本号担当：平川大貴、木幡行宏、梶尾孝之

IGS日本支部編集委員会(名簿)

委員 長	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科暮らし環境系領域社会基盤ユニット
幹 事	西村 淳	三井化学産資(株) 環境資材開発部
幹 事	梶尾 孝之	太陽工業(株)国土環境エンジニアリングカンパニー 事業開発室
委 員	内村 太郎	東京大学大学院工学系研究科
委 員	荻迫 栄治	清水建設株技術研究所
委 員	小浪 岳治	岡三リビック(株)技術部
委 員	高橋 真一	(株)大林組技術研究所
委 員	川島 則子	(株)クラレ 東京繊維資材部
委 員	原田 尚幸	(株)銭高組技術本部技術研究所
委 員	平川 大貴	防衛大学校システム工学群建設環境工学科
委 員	土橋 和敬	前田工織(株)技術部
委 員	石川 雅洋	東洋紡スパンボンド事業部

IGS日本支部会員現在数 (2010年7月末現在)

個人会員 228名 学生会員 22名 特別会員 19社 合計 269名

平成22年7月15日

ジオシンセティックス技術情報 (国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌) Vol.26, No.2

発 行 : 国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 ((社) 地盤工学会内)

事務連絡 : 〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

埼玉大学地圏科学研究センター 桑野研究室内

TEL 048-858-9239 FAX 048-858-9239 E-mail iju@jcigs.org